

安全管理規程

平成20年 4月 1日制定
平成24年 5月15日改正
平成25年 7月 1日改正
平成28年 7月 1日改正
平成29年 4月 1日改正
平成30年 1月 1日改正
2019年10月 1日改正
2021年 1月 1日改正

第1章 総 則

(目的)

第 1 条 この規程（以下「本規程」という）は、貨物自動車運送事業法第15条及び第16条の規定に基づき、輸送の安全を確保するために遵守すべき事項を定め、輸送の安全性の向上を図ることを目的とする。（別添1参照）

(適用範囲)

第 2 条 本規程は、株式会社ダイライン（以下「当社」という）の輸送事業に係る業務活動に適用する。但し基本的には名糖運輸株式会社（以下「名糖運輸」という）のグループ関係会社として、名糖運輸の安全管理規程の運用を行う。

第2章 輸送の安全を確保するための事業運営の方針等

(輸送の安全に関する基本方針)

第 3 条 社長は、輸送の安全確保のために以下の事項を行う。

1. 関係法令等の遵守と安全最優先の原則を各部署へ徹底する。
2. 安全方針を設定し各部署に周知する。
3. 安全方針に沿って具体的な施策を実施するために、各部署に対し安全目標を設定させる。
4. 重大な事故等への対応を確実に行う。
5. 運輸安全マネジメントシステムを確立し、実施し、維持するとと

もに、輸送の安全を確保するために必要な経営資源（人員、情報、設備等）を提供する。

6. マネジメントレビューにより運輸安全マネジメントシステムを定期的に見直すとともに、継続的改善を行う。

（社長の責務）

第 4 条 社長の責務を以下に示す。

1. 輸送の安全の確保に関する最終的な責任を有する。
2. 輸送の安全の確保に関し、予算の確保、体制の構築等必要な処置を講じる。
3. 輸送の安全の確保に関し、取締役の内、貨物自動車運送事業輸送安全規則第二条の六に規定する要件を満たす者の中から安全統括管理者を任命する。（別添 2 参照）
4. 輸送の安全の確保に関し、安全統括管理者の意見を尊重する。
5. 輸送の安全を確保するための業務の実施及び管理の状況が適切かどうかを常に確認し、必要な改善を行う。

（安全統括管理者の責務）

第 5 条 安全統括管理者の責務を以下に示す。

1. 全社員（従業員、作業員、及び派遣社員等を含む）に）対し、関係法令等の遵守と輸送の安全の確保が最も重要であると意識を徹底させる。
2. 輸送の安全の確保に関し、その実施及び管理体制を確立、維持する。
3. 輸送の安全に関する方針、重点施策、目標及び計画を確実に実施する。
4. 輸送の安全に関する報告連絡体制を構築し、各部署に対し周知を図る。
5. 輸送の安全確保に関し、必要な改善に関する意見を述べる等、必要な改善処置を講じる。
6. 運行管理が適正に行われるよう、運行管理者を統括管理する。
7. 輸送の安全を確保するため、全社員に対して必要な教育・訓練を行う。
8. 輸送の安全の確保の状況について、定期的に、かつ必要に応じて、随時、内部監査を行い、マネジメントレビューのための参考情報として社長に報告する。

9. その他の輸送の安全の確保に関する統括管理を行う。

第3章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理体制

(社内組織)

第6条 輸送の安全に関する社内組織を以下に示す。

1. 次に掲げる者を選任し、輸送の安全の確保について責任ある体制を構築し、輸送の安全を確保するための企業統治を的確に行う。
 - (1) 安全統括管理者（第7条参照）
 - (2) 運行管理者（「運行管理規程」参照）
 - (3) 整備管理者（「整備管理規程」参照）
 - (4) 添乗指導員
 - (5) その他必要な責任者
2. 部署長は、安全統括管理者の命を受け、輸送の安全の確保に関し、所内各部門を統括し、指導監督を行う。
3. 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統については、安全統括管理者が病気等を理由に本社に不在で有る場合や重大な事故・災害等に対応する場合も含め、別表1「安全管理組織図」に示す。（部署用例は別表に2参照）

(安全統括管理者の選任及び解任)

第7条 安全統括管理者の選任及び解任について以下の通り定める。

1. 社長は、第4条3項に基づき安全統括管理者を任命する。
2. 安全統括管理者が次の各号いずれかに該当することとなったときは、当該管理者を解任する。
 - (1) 国土交通大臣の解任命令が出されたとき。
 - (2) 身体の故障その他やむを得ない事由により職務を引き続き行うことが困難になったとき。
 - (3) 関係法令等の違反又は輸送の安全の確保の状況に関する確認を怠る等により、安全統括管理者がその職務を引き続き行うことが輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。
3. 安全統括管理者を選任したとき又は解任したときは、遅滞なく届け出を行う。

(輸送の安全に関する重点施策)

第 8 条 輸送の安全に関する重点施策を以下の通り定める。

1. 部署長、本社スタッフは、輸送の安全に関する基本方針（第 3 条参照）に基づき、次に掲げる事項を行う。
 - (1) 輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底し、関係法令及び本規程に定められた事項を遵守すること。
 - (2) 輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うよう努めること。
 - (3) 輸送の安全に関する内部監査を行い、必要な是正処置又は予防処置を講じること。
 - (4) 輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有すること。
 - (5) 輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、これを的確に実施すること。
2. グループ間で密接に協力し、一丸となって輸送の安全性の向上に努める。
3. 外注先を利用する場合にあっては、外注先の輸送の安全の確保を阻害するような行為を行わない。更に、外注先と長期契約を結ぶ等の密接な関係にある場合は、可能な範囲において、外注先の輸送の安全の向上に協力するように努める。

(輸送の安全に関する目標設定)

第 9 条 年度安全目標の設定を以下の通り行う。

1. 安全統括管理者は社長のマネジメントレビューの指示を受け、3月に次年度の年度安全目標を設定し各部署へ通知する。(年度安全目標：様式「安全統括管理者用」を用いる)
2. 安全統括管理者は、部署長に対し、前条の重点施策と年度安全目標を達成するために、年度安全目標を設定させ、承認し実行させる。(年度安全目標：様式 5「営業所【関係会社用】」を用いる。)
3. 上記 1～2 で設定される年度目標は、数値化され、達成度が判定可能でなければならない。
4. 部署長は、毎年 3 月に年度安全目標の結果をまとめ、安全統括管理者に報告する。(達成度報告書：様式 6「営業所【関係会社用】」を用いる。)
5. 安全統括管理者は前項の年度安全目標の達成度報告書を承認し、社長に提出する。また、この結果をマネジメントレビューの参考

情報として扱う。

(輸送の安全に関する実施計画)

第 10 条 部署長は、前条に掲げる年度安全目標を達成するための月次管理として、各部署における具体的な実施計画を「営業計画書」にて計画し、その実施結果を「営業報告書」にて報告する。(営業計画書・報告書は名糖運輸グループ共通様式を用いる。)

第 4 章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理方法

(輸送の安全に関する重点施策の実施)

第 11 条 部署長は、輸送の安全に関する基本方針（第 3 条参照）に基づき、年度安全目標（第 9 条参照）を達成すべく、実施計画（第 10 条参照）に従い、重点施策（第 8 条参照）を着実に実施する。

(輸送の安全に関する情報の共有及び伝達)

第 12 条 輸送の安全に関する情報の共有及び伝達を以下の通り定める。

1. 当社は、所長会議、事業部長会議、各部署で実施する役職者会議、グループミーティング等を通じて、経営者層と現場の運行管理者、整備管理者及び運転者等との双方向の意思疎通を十分に行うことにより、輸送の安全に関する情報が適時適切に社内において伝達され、共有されるように努める。また、安全性を損なうような事態を発見した場合には、看過したり、隠蔽したりせず、直ちに関係者に伝え、適切な処置を講じる。
2. 社長は所長会議、事業部長会議を主催する。
3. 安全統括管理者は運輸安全マネジメントシステムの以下の情報を所長会議、事業部長会議で伝達共有する。
 - (1) 運輸安全内部監査の結果に関する事項。
 - (2) 輸送の安全に関わる法令諸規則の励行に関する事項。
 - (3) 輸送の安全を推進するために必要な情報の入手と従業員への伝達及び社内発表。
 - (4) マネジメントレビュー
 - (5) 輸送の安全確保、並びに事故及び災害予防の教育啓蒙に関する事項。
 - (6) 社外への公表に関する事項。
 - (7) その他必要な事項。

(事故・災害等に関する報告連絡体制)

第 13 条 事故・災害等に関する報告連絡体制を以下の通り定める。

1. 部署長は、事故・災害に関する報告を、自動車事故報告・労災事故報告手順書に則り、安全統括管理者、社長、名糖運輸、及び社内の必要な部署に速やかに伝達されるよう努める。
2. 安全統括管理者は、社内において報告連絡体制の周知を図るとともに、前項の報告連絡体制が十分に機能し、事故・災害等が発生した後の対応が円滑に進むよう必要な指示等を行う。
3. 自動車事故報告規則（昭和二十六年運輸省令第百四号 運行管理規程参照）に定める事故・災害等があった場合は、報告規則の規定に基づき、国土交通大臣へ必要な報告又は届出を行う。
4. 事故・災害等が発生した場合における報告連絡体制の詳細を「運行管理規程」に定める。
5. 事故・災害等に対する再発防止については第 16 条に基づき実施する。

(輸送の安全に関する教育・訓練)

第 14 条 輸送の安全に関する教育・訓練について以下の通り定める。

1. 部署長は「運輸安全教育・訓練計画書」に基づき、自部署の輸送の安全に関する目標（第 9 条参照）を達成するために必要となる人材育成のための教育・訓練の具体的計画を毎年 3 月に策定し、着実に実施する。
2. 輸送の安全に関する教育・訓練には以下のものがある。
 - (1) 運転者に対する法で定められた教育
 - ① 初任運転者に対する特別な指導
 - ・初任運転者に対する特別な指導の内容及び時間
 - ・一般的な指導及び監督内容を実施
 - ・一般的な指導及び監督内容を座学及び実車を用い 15 時間以上実施する。
 - ※積載方法、日常点検および車高等のトラックの構造上の特性に関しては実車を用いて指導
 - ・実際にトラックを運転させ、安全な運転方法を 20 時間以上指導する。
 - ② 事故惹起運転者に対する特別な指導
 - ③ 高齢運転者に対する特別な指導
 - ④ 一般的な指導及び監督

実施については予め月次での計画を作成したうえで継続的に実施する。(12項目中、四半期毎に4分の1程度が終了する様に計画する。)

※貨物自動車運転事業者が運転者に対して行う指導及び監督の指針の改正概要【改正後の追加内容】

→ 改正後の追加内容を漏れなく指導する。

(2) 添乗指導

- ① 新規採用者は選任見極め後1ヶ月以内に1回目、その後2ヶ月毎に1年間継続して添乗指導を予め計画し実施する。
- ② 事故惹起者は再選任見極め後1ヶ月以内に1回目、その後2ヶ月毎に1年間継続して添乗指導を予め計画し実施する。
- ③ 50歳以上の運転者に対しては上期1回以上、下期1回以上の実施となるように添乗指導を予め計画し実施する。
また、年度内に50歳となる運転者は50歳に到達したら、上期1回以上、下期1回以上の実施となるように予め計画し実施する。
- ④ 65歳になった直後1ヶ月以内に1回目、その後2ヶ月毎に継続して添乗指導を予め計画し実施する。
- ⑤ 一般運転者に対しては2年以内に1回以上の実施となるように予め計画し実施する。

(3) 新規採用者教育

(4) 事故発生者教育

(5) 適性診断(法定以外は一般運転者に対し3年に1回以上予め計画を立てて実施する。)

- ① 一般診断「自動車事故対策機構」等
- ② OD式安全性テスト「電脳」等
- ③ 運転手シュミレーターマシンを使用した診断「損害保険会社」等

(6) 危険予知訓練

(7) 個人面談

(8) 普通救命講習

(9) 運転記録証明書(自動車安全運転センター発行のものを年1回(過去5年分)取得し、事故・違反内容の確認及び指導を行いその内容を記録する。業務中の違反については運転者台帳にも記載する。)

(10) その他の教育・訓練

3. 部署長は、輸送の安全に関する教育・訓練の記録を「運輸安全教育・訓練実施記録書」等に記載し維持する。

(輸送の安全に関する内部監査)

第 15 条 輸送の安全に関する内部監査について以下の通り定める。

1. 安全統括管理者は部署に対し、運輸安全マネジメントシステムの実施状況等を点検するため、実施責任者を指名し適切な時期を定めて輸送の安全に関する内部監査を実施する。
2. 重大な事故・災害等が発生した場合、その他特に必要と認められる場合には、緊急に輸送の安全に関する内部監査を実施する。
3. 安全統括管理者が指名した者による内部監査で指摘されたものについては「運輸安全内部監査報告書/是正処置計画書」に基づき、各部署にて是正処置を行う。
4. 安全統括管理者は、前項の内部監査が終了した場合はその結果を、改善すべき事項が認められた場合はその内容を、速やかに、社長に報告するとともに、輸送の安全確保のために必要な方策を検討する。

(事故・災害等の再発防止)

第 16 条 事故・災害等の再発防止について以下の通り定める。

事故・災害等が発生させた各部署長は、事故・災害等の応急処置実施後、是正に関する報告を、自動車事故報告・労災事故報告手順書に基づき輸送の安全確保のために必要な方策を講じ、実施した事故是正処置と効果の確認を報告する。

1. 安全統括管理者は、事故・災害等の情報を必要に応じて水平展開し、他部署においては同様の事故・災害等が発生させないようにするために「運輸安全予防処置報告書」に基づき予防処置を実施させる。
2. 部署長は自部署にて少なくとも四半期に 1 回以上、輸送の安全を確保するために「運輸安全予防処置報告書」にて予防処置を講じる。
3. 是正処置及び予防処置は、安全統括管理者を経由し社長に提出する。

(輸送の安全に関するマネジメントレビュー)

第 17 条 輸送の安全に関するマネジメントレビューについて以下の通り定める。なお、マネジメントレビューは原則年 1 回実施し、必要な場合はその都度実施する。

1. 安全統括管理者は、輸送の安全に関するマネジメントレビューの
為の参考情報を作成し、社長に報告する。
2. 輸送の安全に関するマネジメントレビューのための参考情報は以
下の通りとする。
 - (1) 監査の結果
 - (2) 関係法令等の遵守の確保状況
 - (3) プロセスの実施状況及び活動の適合性
 - (4) 予防処置及び是正処置の状況
 - (5) 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォロ
ーアップ
 - (6) 運輸安全マネジメントシステムに影響を及ぼす可能性の
ある変更
 - (7) 改善のための提案
3. 社長は「運輸安全マネジメントレビューのための参考情報報告書」
に基づき、改善のための指示を行う。(様式「運輸安全マネジメン
トレビュー指示書/効果報告書」を用いる。)
4. 安全統括管理者は、社長が承認後速やかに名糖運輸安全統括管理
者に報告する。

(輸送の安全に関する情報の公開)

第 18 条 輸送の安全に関する情報の公開について以下の通り定める。

1. 本社事務局は、毎年度、外部に対し以下の情報を本社内で掲示し
公表する。
 - (1) 自動車事故報告規則第 2 条に規定する事故に関する統計
 - (2) 安全統括管理者
 - (3) 安全管理規程
 - (4) 輸送の安全に関する教育・訓練の計画内容
 - (5) 年度安全目標の達成状況
 - (6) 輸送の安全に関する内部監査結果及びそれを踏まえた処
置内容
2. 事故・災害等の発生後における再発防止策等、行政処分後に輸送
の安全の確保のために講じた改善状況について国土交通省に報告
した場合には、速やかに本社事務局が関係各所に情報を伝達し掲
示等で公表する。

(輸送の安全に関する記録の管理)

第 19 条 輸送の安全に関する記録の管理については以下の通り定める。

1. 部署長及び本社スタッフは、運輸安全マネジメントシステムに関する記録について、読みやすく、容易に識別可能で、検索可能で有るように維持する。
2. 運輸安全マネジメントシステムに関する記録の保管部署及び保管期間については、「運輸安全マネジメントシステム記録一覧」に示す通りとする。
3. 保管期間を過ぎたものについては半年に 1 回見直し廃棄する。

(規程の改定)

第 20 条 本規程の改定は「規程等管理規程」に基づく。

(関連規程)

第 21 条 輸送の安全に関する関連規程は以下の通りとする。

運行管理規程 [名糖運輸共通規程 8](#)

整備管理規程 [名糖運輸共通規程 9](#)

貨物自動車運送事業法抜粋

第十五条（輸送の安全性の向上）

一般貨物自動車運送事業者は、輸送の安全確保が最も重要であることを自覚し、絶えず輸送の安全性の向上に努めなければならない。

第十六条（安全管理規程）

- 1 一般貨物自動車運送事業者（その事業の規模が国土交通省令で定める規模未満であるものを除く。以下この条例にて同じ。）は、安全管理規程を定め、国土交通省令で定めるところにより、国土交通大臣に届け出なければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。
- 2 安全管理規程は、輸送の安全を確保するために一般貨物自動車運送事業者が遵守すべき次に掲げる事項に関し、国土交通省令で定めるところにより、必要な内容を定めたものでなければならない。
 - 一 輸送の安全を確保するための事業の運営の方針に関する事項
 - 二 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制に関する事項
 - 三 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の方法に関する事項
 - 四 安全統括管理者（一般貨物自動車運送事業者が、前3号に掲げる事項に関する業務を統括管理させるため、事業運営上の重要な決定に参画する管理的地位にあり、かつ、一般貨物自動車運送事業に関する一定の実務の経験その他の国土交通省令で定める要件を備える者の内から選任する者をいう。）以下同じ）の選任に関する事項
- 3 国土交通大臣は、安全管理規程が前項の規定に適合しないと認めるときは、当該一般貨物自動車運送事業者に対し、これを変更すべきことを命ずることができる。
- 4 一般貨物自動車運送事業者は、安全統括管理者を選任しなければならない。
- 5 一般貨物自動車運送事業者は、安全統括管理者を選任し、又は解任したときは、国土交通省令で定めるところにより、遅滞なく、その旨を国土交通大臣に届け出なければならない。
- 6 一般貨物自動車運送事業者は、輸送の安全の確保に関し、安全統括管理者のその職務を行う上での意見を尊重しなければならない。
- 7 国土交通大臣は、安全統括管理者がその職務を怠った場合であつて、当該安全統括管理者が引き続きその職務を行うことが輸送の安全の確保に著しく支障を及ぼすおそれがあると認めるときは、一般貨物自動車運送事業者に対し、当該安全統括管理者を解任すべきことを命ずることができる。

貨物自動車運送事業輸送安全規則抜粋

第二条の六（安全統括管理者の要件）

法第 16 条第 2 項第 4 号（法第 35 条第 6 項において準用する場合を含む）の国土交通省令で定める要件は、次に掲げるもののいずれかに該当し、かつ、法第 16 条第 7 項（法第 35 条第 6 項において準用する場合を含む。）の命令により解任され、解任の日から 2 年を経過しない者でないこととする。

- 一 一般貨物自動車運送事業又は特定貨物自動車運送事業の輸送の安全に関する業務のうち、次のいずれかに該当するものに通算して 3 年以上従事した経験を有する者
 - イ 事業用自動車の運行の安全の確保に関する業務
 - ロ 事業用自動車の点検及び整備の管理に関する業務
 - ハ イ又はロに掲げる業務その他の輸送の安全の確保に関する業務を管理する業務
- 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると地方運輸支局長が認める者